

## (2) 学級担任に求められる教育相談

児童生徒は、学級の一員としての「存在感・所属感」が持て、自分の居場所が確認できて初めて安心感が得られます。担任は、そうした環境を保障する、最も身近な「援助者」である必要があります。担任とは、他の教師のそれよりも心を許せる人間関係があれば、一人一人の心のサインがとらえやすくなり、行動を多面的に見ていくことができるようになります。

学級担任が行う教育相談には、次のような利点があります。

### 学級担任が行う教育相談の利点

- 児童生徒一人一人の毎日の学校生活の様子が把握できる。
- 児童生徒の理解を深め、多くの情報を得る機会を持つことができる。
- 学級集団を母体とした様々な活動を通し、児童生徒一人一人を育てる推進者となることができる。
- 保護者と直接連携を図り、共に目標や方向を目指すことができる。

また、学級担任が行う教育相談には、次のようなことが求められます。

#### ① 学業（学習）相談をすべての児童生徒を対象に行う

児童生徒にとって、学習の結果わかったりできたりすることは、学校生活の大きな願いの一つです。学習の仕方や習慣など、具体的な学業（学習）の相談は、教育相談の大きな比重を占めるべきものです。一人一人の児童生徒を対象に積極的に行いたいものです。

#### ② 進路相談をすべての児童生徒を対象に行う

進路相談は、単なる進学、就職といった「振り分け」「出口」の相談ではなく、それぞれの校種での発達段階をふまえながら、将来への生き方・在り方など自立への援助として幅広く考えていきたいものです。その意味で進路相談は、いわば人生の針路の相談です。「育て・伸ばし・深め・高め・生かす」を基本に、児童生徒一人一人の資質、能力、可能性を最大限に伸長・開花させてやりたいものです。そのための教師の適切な情報の提供、サポート